

令和3年度 学校図書館評価シート

足立区立第七中学校 校長 柏木圭子

1 学校図書館の現状 (今年度末)

蔵書状況	① 蔵書数 15,820 冊 (蔵書基準冊数 12,160 冊) / 蔵書率 130% (前年度 133%)									
	② 新規購入図書 844 冊 / 廃棄図書 1,289 冊 / 増減冊数 445 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	1.7%	2.8%	9.9%	9%	7.2%	5.2%	2.5%	9.9%	6.1%	44.2%
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間: 12:30~16:30 (前年度からの変更 あり・なし)									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 10.25 冊 (前年度: 10.5 冊)									
	③ 学校図書館利用率 44.7 % (前年度: 36.9%)									

2 学校図書館基本計画「学校図書館の目標・ねらい」の達成状況 (今年度総括)

- ① 感染症対策にも慣れ、学校図書館の開館日数、時間数も確保できた。しかし、利用率は想定ほどには伸びなかった。
- ② 調べる学習コンクールへの参加、修学旅行・自然教室の事前学習など、学校図書館の情報を活用し、主体的に学ぶ場面を設けることができた。レポートの形式で自分を表現することもできた。
- ③ 図書だよりの発行、図書委員会の活動により、読書の奨励を図ることができた。しかし、読書習慣の定着、読書力の向上までは至らなかった。

3 今年度の重点指導事項・具体的取り組み、及び成果目標の達成状況

第 1 学年	① 小学校からの読書習慣を継続しながら、読書に親しむ意欲を育成する。	
	②◎学校図書を活用した探究活動を通して、問題発見・解決能力の育成を図る。	
	③ 図書の借り方や扱い方等、正しく利用する態度を育てる。	
今年度の成果目標		達成基準
① 昼休みに主体的に学校図書館を活用し、朝読書（週 50 分）や家庭で、日常的に読書を行うことができる。		① 第 1 学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比 10%増
②◎図書館の本や新聞等を活用しながら探究活動を進め、課題に対して自分の考えをまとめ、表現することができる。		②◎学年生徒の調べる学習コンクール参加率 90%以上
③ 学校図書館のきまりや仕組みを守り、学校図書館を活用することができる。		③ 学校図書館オリエンテーションの学年全生徒の受講率 100%
目標達成状況		
① 図書館を利用する生徒に偏りがあり、貸し出し平均冊数を伸ばすことはできなかった。しかし、静かな朝読書を定着させることができた。		
② 調べる学習コンクールの参加率は 90%を超え、学校図書館を活用した探究活動や表現方法を学ぶことができた。		
③ 学校図書館オリエンテーションの学年全生徒の受講率は 100%を達成した。図書館のきまり、仕組みを守り、活用することができた。新型コロナウイルス感染症対策もよく理解し、安全に図書館を利用していた。		

第2学年	① いろいろな読み物を読もうとする意欲を育てる。 ②◎課題によって学校図書やＩＣＴ機器を使い分ける活動を通して、情報活用能力の育成を図る。 ③ 学校図書をよりよくするための思考を通じて、規範意識の育成を図る。
今年度の成果目標	達成基準
① 昼休みに主体的に学校図書館を活用し、朝読書（週 50 分）や家庭で、日常的に読書を行うことができる。 ②◎課題に応じて、本や新聞等、ＩＣＴ機器を使い分け、探究活動を進めることができる。 ③ 学校図書館のきまりや仕組みについて理解し、必要に応じて学校図書館を活用することができる。	① 第2学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比 10%増 ②◎学年生徒の調べる学習コンクール参加率 90%以上 ③ 読書や探究活動の授業を年 10 回以上実施するクラスの割合 100%
目標達成状況	
① 図書館を利用する生徒に偏りもあり、貸し出し平均冊数を伸ばすことはできなかった。しかし、静かな朝読書を定着させることができ、日常的に読書を楽しむ生徒もいた。 ② 調べる学習コンクール参加率は 90%を超え、学校図書館を活用した探究活動や表現方法を学ぶことができた。ICT 機器を活用することもできた。 ③ 授業、キャリア学習や校外学習、修学旅行の事前学習などで学校図書館を活用し、読書や探究活動の授業を年 10 回以上実施するクラスの割合 100%を達成することができた。国語では、本、新聞、ICT 機器などの使い分けを学習することもできた。	

第3学年	① 読書をとらえて考えを上げたり、深めたりしようとする意欲を育てる。 ②◎学校図書やＩＣＴ機器を活用した探究活動を通して、言語能力の育成を図る。 ③ 学校図書をよりよくするための活動を通して、主権者としての素養を育成する。
今年度の成果目標	達成基準
① 昼休みに主体的に学校図書館を活用し、朝読書（週 50 分）や家庭で、日常的に読書を行うことができる。 ②◎課題に応じて、本や新聞等、ＩＣＴ機器を使い分け、探究活動を進め、表現することができる。 ③ 学校図書館のきまりや仕組みについて理解し、よりよい仕組みについて考えたり、話し合ったりすることができる。	① 第3学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比 10%増 ②◎学年生徒の調べる学習コンクール参加率 50%以上 ③ 読書や探究活動の授業を年 10 回以上実施するクラスの割合 100%
目標達成状況	
① 図書館を利用する生徒に偏りがあり、貸し出し平均冊数を伸ばすことはできなかった。しかし、静かな朝読書を定着させることができ、日常的に読書を楽しむ生徒もいた。 ② 新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり、進路対策の学習が優先され、調べる学習コンクール参加率は 20%台にとどまった。 ③ 授業、キャリア学習、修学旅行の事前学習などで学校図書館を活用し、読書や探究活動の授業を実施するクラスの割合は年 5 回程度であったが、100%を達成することができた。国語では、本、新聞、ICT 機器などの使い分けを学習することもできた。	

4 学校図書館環境整備に関する取り組み成果・効果

【蔵書・配架等に関すること】

- ① 社会科学や自然科学、産業などの蔵書の充実を図り、蔵書基準が整ってきた。
- ② 新刊図書の情報収集に努め、生徒および教職員の教育活動の支援も考慮した選書を行うことができた。古い図書の整理も進めることができた
- ③ 「3 桁分類」への転換作業を、全蔵書の 60%を超えるところまで進めることができた。

【学校図書館支援員との連携・協働】

- ① 学校図書館支援員と協力し、入学当初に新入生全員にオリエンテーションを実施した。「日本十進分類法 NDC」の理解を深めた。
- ② 調べ学習時に必要な資料等のレファレンス対応を依頼し、学校図書館を活用した学習活動をスムーズに実施することが出来た。

【その他】

- ① 年度末の貸出返却率 100%を達成した。

5 学校図書館運営に関する全体評価（自己評価）

感染症対策も一定の落ち着きを見せ、昨年度よりも学校図書館を開館できた日数、時間数が確保できた。放課後の開館も再開できた。図書担当教諭と学校図書館支援員が協力しながら読書活動の推進に取り組み、各学年、各教科も授業内での活用、探究活動などでの活用に取り組んでいた。

その成果として、続くコロナ禍の中、読書に楽しみを見つける生徒が安定して増えているのはうれしいことであった。また、調べる学習コンクールへの参加者数が増え、学校図書館を活用して探究活動を進め自分の考えを表現する力を育成する試みが続いている。さらに、キャリア学習、行事の事前学習などでの活用も進めることができた。

一方で、学校図書館を全く利用しない生徒も一定数いるため、読書に興味の無い生徒たちに対しての、読書の面白さを伝えていく効果的な方法を学校図書館支援員と協力して検討していく必要がある。

6 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（外部評価）

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、外部の方々に学校図書館を見ていただき、評価をいただくことができなかった。

7 今後の展望 ー課題や問題点への改善・対応方針を踏まえてー

学校図書館を全く利用しない生徒、読書に興味の無い生徒たちに対して、読書の面白さを伝えていくために、学校支援員、生徒図書委員会と協力し、ポスターやPOPの作成、呼びかけ、読書イベントを実施する。また、各教科、学年において、学校図書館を活用した授業を増やしていく。生徒が学校図書館に関わり読書に親しむ機会をより増やしていくということである。

加えて、学校図書館資料の整理や更新及び図書館内の環境の充実を図り、生徒がより利用しやすい学校図書館にしていく。

また、各学年、各教科で授業内での活用、探究活動などでの活用に取り組んだが、教職員の学校図書館活用における意識にばらつきがあるため、学校長の指揮の下、職務に応じた役割を明確化し、学校全体に学校図書館基本計画等の学校の方針を浸透させることで、連携・協働しながら学校図書館運営を進める体制を構築していく。

これらの取り組みにより、学校図書館の「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」としての機能向上を実現し、生徒が主体的に学校図書館を活用して読書・学習し、創造的な活動を行う環境を醸成していきたい。